

あったが、他の3地点はほとんど葉体が確認できなかった。st.1以外のノリ網には浮泥状のものが付着しており、これがヒトエグサの生育を阻害していると考えられた。

(2) 10月11日、16日(表2)

調査は天候の関係で10月11日(st.1、st.2)、16日(st.3、st.4)の2回に分けて行った。st.3、st.4は場所が移動しているが、9月の時点ではst.3、st.4にあった網である。各地点とも網の一部に芽付きの悪い部分が見られるものの、全体的に順調に成育していた。

表2 10月調査結果

st	葉体数	最長葉体長	網張り日	計数日
1	19.2	0.5	9月7日	10月11日
2	12.1	0.4	9月6日	10月11日
3	10.2	2.0	9月8日	10月15日
4	6.1	1.4	9月7日	10月15日
H12	12.7	1.1	9月6日	10月12日
H12	23.4	0.7	9月7日	10月12日

平成12年度の同時期と比較すると、平成13年度は葉体数は少ないが、st.3、st.4の最長葉体長は平成12年平均を上回っていた。

(3) 11月9日、15日(表3)

11月の調査も10月の調査と同様に天候の関係で、9日と15日の2日に分けて行った。

11月9日ではst.8の7.2cm、11月15日ではst.6の6.5cmが最長であった。

乾燥重量(網系3cmあたり)が最大であったのは、11月9日がst.10で0.178g、11月15日がst.2で0.199gであった。

11月15日には、9日の調査で乾重量が最低の値を示したst.4を目視観察したが、他地点より付着状況が良くなかった。なおこの月は、調査対象地点外の宇多川河口域st.7でも、付着状況の悪さが観察された。

表3 11月調査結果

st	乾燥重量	最長葉体長	計数日
1	0.109	4.8	11月15日
2	0.199	5.6	11月15日
3	0.113	4.8	11月9日
4	0.070	5.6	11月9日
5	0.160	4.8	11月15日
6	0.168	6.5	11月15日
7	---	---	---
8	0.094	7.2	11月9日
9	0.155	5.4	11月15日
10	0.178	6.0	11月9日
11	---	---	---

(4) 12月10日(表4)

乾燥重量が最も重かった地点st.2では網系3cmあたりの乾重量が0.5gを越えているものの、他地点ごとの付着量に大きな差がみられた。この他、宇多川河口域のst.7、和田地区のst.9が、今回の調査では特に、付着量が少ない傾向が見られた。st.7は、平成12年の調査では付着量が少なく、11月の目視観察でも生育状況は悪かったが、付着量が少なかったのは水路側に面した網

表4 12月調査結果

st	乾燥重量	最長葉体長	H12乾燥重量	H12最長葉体長
1	0.141	5.7	0.350	6.8
2	0.540	10.5	0.281	7.2
3	0.201	9.6	0.134	8.8
4	0.134	6.5	0.252	11.2
5	0.295	6.0	0.240	9.2
6	0.264	8.2	0.225	8.5
7	0.031	1.4	0.083	3.6
8	0.193	7.5	0.290	8.7
9	0.081	3.8	0.278	8.2
10	0.162	8.2	0.227	8.7
11	0.026	1.6	---	---
平均	0.188	6.3	0.236	8.1

(H12の測定日は12月15日)

だけのようで、直接淡水にあたらなかった内側では、他地点と差は見られなかった。

st.9は、サンプリングした網の場所が良くなかったのか、後に同地点の他の網を目視したところ、生育は良好であった。

st.11は、松川浦漁協から、ここ2、3年芽落ちが見られるという情報を受けて調査を行った。